

「JENESYS2019」第二十四回中国教育関係者代表团 参加者の感想（抜粋）

◆まず、日本の学校の人材育成目標は明確で実効性があり、スローガンを叫ぶだけで終わっていない。

第二に、日本の教育は学校だけではなく、全社会で人材育成の任務を担い、科学館や観光スポットも教育に好適な場所である。

第三に、生徒が自己形成・自己成長するよう励まし、限定した選択や規則を押し付けるのではなく、選択の空間を与え、生徒の主動性と創造性を最大限に発展させる。

第四に、日本の教室では、教師と生徒が打ち解けあって、みな平等に討論し、グループもお互い対等に交流していて、学習は味気ないものでも、ましてや苦痛なものでもないと感じられた。中国の教育は、往々にして成績を特別重視するが、日本では習慣の育成、人格や意志力の形成をより重視している。

第五に、日本はごみの分別がきちんと行われている。大切なのは、各自が自覚し、各自が行うようにすることなので、赤ちゃんのときから教育すること、そして一貫した教育、忍耐強く、意志を持った教育は特に学ぶべきだ。

他にも、日本の綺麗で整然としているところ、秩序が取れているところ、美しい環境、自己処理能力も、特に学ぶべきだ。

日本は、子供の健康やスポーツ鍛錬を格別重視していて、学校は生徒が身体を鍛えることを奨励し、耐寒教育や体育の授業で子供たちが自分にチャレンジし、困難を克服する資質を育成している。

◆今回来日して、東京・大阪で日本の小中学校を見学し、文部科学省、大阪府教育庁のブリーフを拝聴して、間近で中日両国の文化、教育面での違いと共通点を理解することができた。

全体として、中日両国の教育分野はとても似ている。9年の義務教育、小学校6年、中学3年、高校3年、中日両国ともとても教育を重視している。数日の交流と見学で、日本の教育で印象深かったのは、日本の学校が生徒の身体的素養と労働教育を大変重視している点だ。体育の授業での生徒の運動強度が高い。大空小学校で児童が自分たちで昼食を運び、昼の休み時間に学校の公共エリアを掃除することなどは素晴らしいと思った。日本はどのように他人と交流するか、自分にチャレンジするかなど、資質教育を重視していると分かった。また、日本の各学校では災害教育を大変重視している！

◆5日間の訪日で、日本の悠久の歴史文化と先進的な教育理念についてさらに理解を深め、新たな認識を得ることができた。文部科学省のブリーフ、大阪府教育庁との懇談、また小中学校での見学、学習、すべてにおいて、日本が個性の尊重を提唱していることが最も印象深かった。人はみな平等で、すべての生徒を成長させようという教育理念。日本では生徒は学校で多くの成長の機会があり、点数だけで簡単に判断する評価システムとは異なっている。このような教育理念のもと、生徒はより多様化された、自分の特徴にあった成長を遂げることができるであろう。このような人を基本とした教育理念、また個々の教育者がこの理念のもと努力・探求していることを、私たちは是非学ぶべきだと思う。

また、日本の国民教育の面で、学校はとても重要で突出した役割を果たしていた。2つの例を挙げる。1つは、生徒の労働教育で、大阪市立大空小学校を訪問した際、生徒が自分たちで食事を運び、配り、給食後の昼休みに廊下を掃除しているのを見た。このような方法は、生徒に実践の中から労働によって素晴らしい生活が生み出されることを実感させるものである。もう1つの例は、ごみ分別と環境保護意識の教育が根付いていること。生徒と一緒に給食を食べた際、紙パック牛乳を飲み終えた後、ごみを紙パックとプラスチックストローの2種類に分けるなど廃棄容器の分別が大変細かいことを目にした。このような全国民に対して環境保護意識の教育が浸透しているところは、私たちは努めて学ぶべきだ。

◆今回の訪問で、幸運なことに東京学芸大学付属国際中等教育学校および大空小学校を深く理解することができ、収穫が多かった。東京学芸大学付属国際中等教育学校は、多様性や国際性のある、将来海外で活躍できる人材を育て、学校のカリキュラムは日本の教育課程だけでなく、IB課程を開設している。学校の英語による授業は非常に特色があり、一般の生徒、また英語能力が高い帰国子女の生徒にも適している。校長の一言が大変印象に残っている。「良い学校に合格するのは学習した結果であって、教育の目的ではない」。また、中一の帰国子女生徒が挨拶で、「中国は生徒の成績がすべてに関係してくるが、日本では良い学校を受験したければ塾があるので、学校では基礎教育を行うだけで、すべての生徒がそんなに勉強のプレッシャーを感じていない。個々の生徒は、みんな公平に扱われ、成績がすべてではない。みんなとても自信を持っている」と述べた。この理念は是非学ぶべきだし、深く考えるべきだ。

大空小学校の訪問で最も印象に残ったのは、この小学校のインクルーシブ教育である。体育館で全校1～6年の全児童が大自然のような歌声を聞かせてくれ、とても感動した。最も感動したのは、子供たちが舞台から降りる際、知的障害や体の障害があるクラスメートを進んで助けているのを見て、心が震えるほど感動した！中国では障害のある子供は笑ひ者にされるかもしれない。しかし、ここではすべての子供たちがお互いに助け合い、受け入れあっている。本当に敬服した！学校の教育理念にも、真のインクルーシブ教育の目標が見て取れた。ともに学び、ともに生きる、ともに成長する！大空小学校が生徒に定めた4つの理念、1.人を尊重する力（人を大切に作る力）2.考える力3.表現する力4.チャレンジする力を私たちは是非学ぶべきだ。小さな頃から、子供たちの受け入れる、責任を持つ、考える、役目を担うという良い習慣を育むことは、全人的成長の育成を具体的に表したものである。

今回の訪問視察は、本当に得るところが多かった。帰国後、きちんと総括し、振り返って考え、同僚に伝え、目にした良い理念を伝えていきたい！

◆来日前、日本の小学校はどんなだろうかと何回も想像した。アニメや日本のドラマみたいなかわいい制服やおいしい弁当の他に、日本のキャンパスはどんなだろう？小生徒は？また日本の先生はどんなだろう？

好奇心いっぱい、国立の国際学校と公立の学校を見学した。以前の私立の貴族的教育に抱いていた印象とは違い、日本の学校は全体的印象として、誠実で気取らず、校門を入ると最初に庭一面緑、そして、子供たちが落ち葉で覆われた運動場でグループになって思いのままに汗を流し、笑顔で迎えてくれた。感動の始まりだ。

感動1、教師の笑顔

見学した学校は、基本は半日だったが、日本の教師の温かさと誠実さを感じ取るに十分であった。公立でも国立でも、子供たちと校長や教師との関係が非常に良い。教師が険しい顔をすることは少なく、優しい笑顔で子供に接している。

感動2、子供たちも自ら貢献する

子供たちは学校で昼食を食べる際、すべてを自分たちでやり、きちんと分担して、進んでごみを分別する。おいしい食事を味わうと同時に、労働と団結の意識を高める。

今回の旅は私にとって勉強になったし、さらに改めて考えさせられた。私たちはみな子供たちに何を与えられるか、どのように努力すればいいか考えなければならないと思う。

◆1.東京学芸大学付属国際中等教育学校では、規範に沿った自主的な授業と教師が自身に厳しく働いていることがとても印象に残った。自主的に探究する授業や厳密なカリキュラム管理から、学校の教育従事者の本意と初志が感じられた。「多様で、異なる背景の人がすべて世界の舞台上で活躍できるよう育成する」というこの学校の教育理念は、学校のカリキュラム設定に最大限に現れていた。カリキュラムの中心であ

る IB 課程がすべてにイニシアティブをとり、理念や目標の統一を実現していた。

2. 大阪市立大空小学校では、特別支援の生徒に対する管理方法がとてもユニークであった。それぞれの生徒を集団生活に融けこませ、一緒に学び、一緒に生活し、一緒に成長する。さまざまな方法で「すべての生徒の学習権を保障する学校をつくる」を本当に実現していた。学校のすべての活動に生徒が自ら関わり、自分たちでやり遂げて、労働と学習の過程で労働の大変さを体得している。また、集団の誇りとチーム力を感じた。「自分がされて嫌なことは人にしない」という理念は素晴らしい！

3. 文部科学省のブリーフを聞いて、東京や日本の規範に沿った、計画的な学科ごとの指導や改訂が印象に残った。学校教育の教育事業の一貫性と整合性を強く保障していた。同時に日本は教員資格の認定有効期限 10 年という政策を実施しているが、これは教師の個人のレベルアップや生涯学習を大いに促すことができる。

4. 大阪府教育庁のブリーフで、教育管理部門が学校をサポートし、協力し、学校の事業に明確な方向性を示しているなど学校教育事業をしっかり支援していることが感じられた。

◆ 1. 文部科学省のブリーフと大阪府教育庁との懇談会を通じて、日本の教育の現状をさらに理解することができた。①カリキュラムの基準の交付・実現・教科書の編集審査など中央政府は指導と監督に力を入れ、地方自治体は実行とイノベーションに力を入れている。②政府は教育へ精力を注ぐことと関心を重視している。さまざまな方法で、社会全体の教育に対する関心および教師の地位を高めている。

2. ブリーフと懇談会は民主的で、詳細な資料を準備し、ポイントを紹介して、質疑応答に多くの時間をかけた。日本の教育を理解したいと思う各人が、質疑応答によって答えを得ることができた。受け取った資料には現状の政策だけではなく、直面する問題やそれに対する対策も書かれており、振り返って考えることで、大胆に発展していこうという日本の教育の決意が見られた。

3. 2校の見学が深く印象に残った。校長が情熱的に職務に打ち込んでいることに感動した。教師の仕事量は大変多く、子供たちに関心を寄せ、教師と生徒の関係も和やかで、校内は美しく整理されていた。

◆ たったの数日だったが、感慨深かった。美しい桜は見るができなかったが、楓で赤く染まった日本列島は絵のように美しく、深い縁のある隣国は以前とは全く違う印象を残した。この国は、礼儀正しく、綺麗に整っていて、秩序正しく、ずっと感動し通しだった。

上野中学校のカリキュラム設定は中国とは違っていて、クラブ活動は私たちも学ぶべきだ。クラスの生徒数は少なく（1クラス 40 名前後）、掃除や自分たちでの調理・被服製作など実践に力を入れている点も学ぶべきだ。日本の学校の運動場は土で、生徒に自然に触れさせるためだが、校舎にはちり一つない。

日本の衛生は、洗面所・バス・ごみ処理・教育礼節など多くの面で着実に行われていて、大げさではなく、数日間、衣類にはちり一つ着かなかつたし、どこを触ってもほこりがなく、住宅建設でも衛生が考慮されている。先進技術でのビル建設もエコが実現できる。この点も私たちは学ぶべきだ。

日本人は誰も暇にしていない。サービスしてくれる定年をずいぶん過ぎたお年寄りも自分ができる仕事を行っている。みんなが貢献し、謙虚で温かく、礼儀正しいというのは素晴らしい習慣だと感じた。

◆ 1. 子供の生活能力の育成がきちんと行われていることが、以下の面に現れていた。①子供が登校する際、父兄は送り迎えをせず、自分たちで歩いてまたは電車で登下校している。これは側面的に、日本は安全が保障されていることを表している。②学校には家庭科があり、子供に生活の基本的技能を教えている。③食育課程がきちんと行われている。④学校には専門の清掃員がおらず、「自分が使用した場所は自分で掃除する」という原則で、すべての先生、生徒が放課後に一緒に清掃を行う。

2. 大阪の特別支援教育はきちんと行われている。学校で、学力または身体・心理的に集団の学習に加わ

るのが難しい生徒を見たが、特別支援学級の先生が専任で面倒を見て、指導している。日本の教育理念は「特別な支援が必要な人も、一般の人の中で普通の生活をおくるべき」で、本当に人を基本とした理念で深く印象に残った。

3. 日本人は礼儀正しく、綿密で原則を重んじ、日本の環境は綺麗で整っていて、静かで安全なことすべてが印象深かった。人口がこんなに多い国で国土の2/3の森林を保っているというのは素晴らしい。

4. 無人運転電車、地震防災の各対策など日本の社会の自動化・科学化は素晴らしい。